



2011/ 11 / 9開催・資産運用セミナー

非流動資産への投資の魅力

～市場型リスク管理の限界とプライベートな関係性の中でのリスク管理～

## アンケート結果報告

HCアセットマネジメント株式会社



# 「セミナーテーマに関するアンケート」結果報告

---

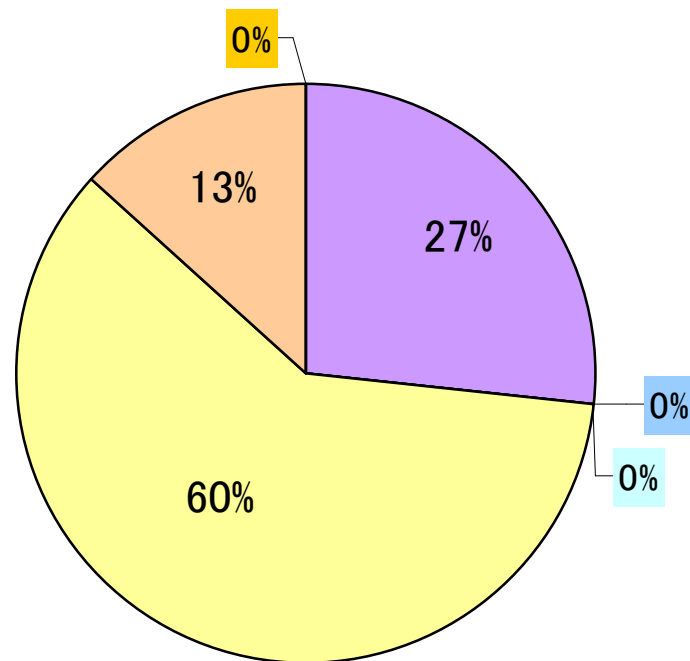
流動性の低い資産の組入れについてアンケートを実施。

- ・セミナー参加者人数           計30名
- ・アンケート回答者人数       計15名

**回答率 : 50%**

※小数点第一位以下切捨

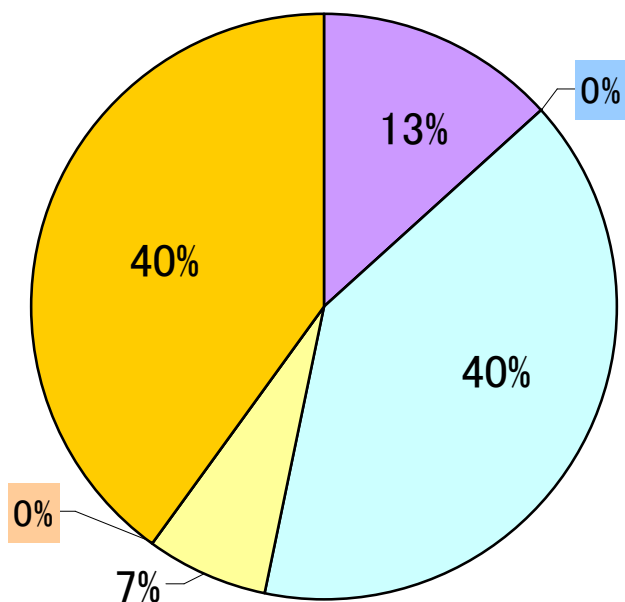
# アンケートにご協力頂いた方の業種別割合



	人数
①	4
②	0
③	0
④	9
⑤	2
⑥	0
合計	15

- ① 年金基金もしくは母体企業の資産運用管理者
- ② 金融機関の自己資産運用担当者
- ③ 大学財団など、その他法人の資産運用担当者
- ④ 投資運用業者(信託銀行を含む)
- ⑤ コンサルタント
- ⑥ その他

Q1 平均的な年金基金にとって、流動性の低い資産の組入れに上限を設けるとしたら、総資産の何パーセントくらいが適当だと、お考えでしょうか。  
一番近いものを、一つだけ、お選びください。



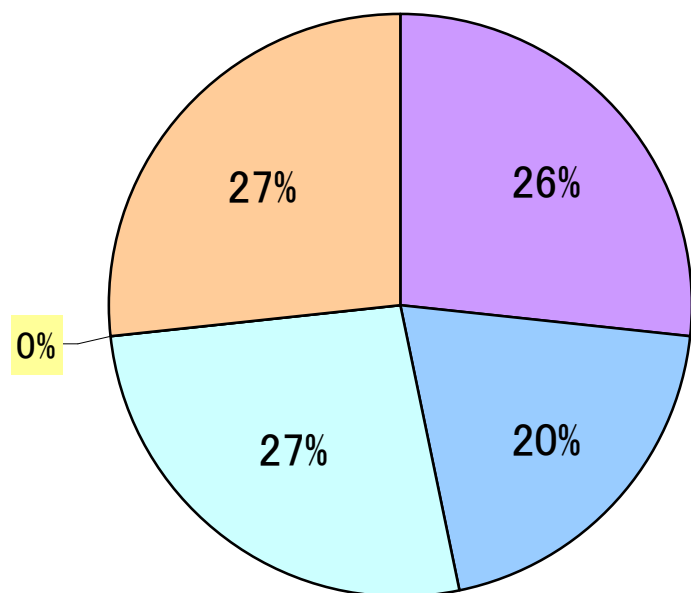
	人数
①	2
②	0
③	6
④	1
⑤	0
⑥	6
合計	15

- ① 5%以下
- ② 10%以下
- ③ 20%以下
- ④ 30%以下
- ⑤ 50%以下
- ⑥ そもそも上限など不要

**【回答⑥に対してのコメント】**

\*成熟度により異なる。弊基金なら1/2位でも可

Q2 もしも、流動性の低い資産を投資対象として積極的に検討するとしたら、その魅力は、どのような点に、見出されるのでしょうか。一番近いものを、一つだけ、お選びください。



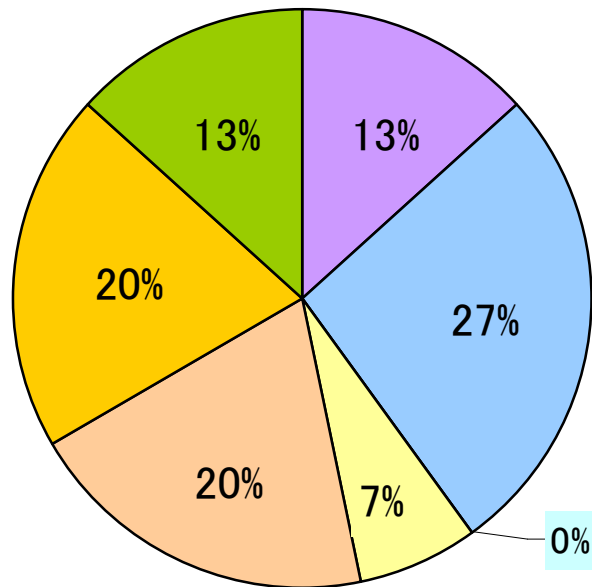
	人数
①	4
②	3
③	4
④	0
⑤	4
合計	15

- ① 相対的に、流動性の高い資産に比べて、割安である
- ② 時価評価による影響が小さい
- ③ 債券や株式との相関が低い
- ④ 運用者による付加価値(バリュウアップ)を期待できる
- ⑤ その他

**【その他の回答】**

- \*非流動性プレミアムが見込める
- \*負債デュレーションとのマッチング
- \*個別の条件が付加できる(Privateなものなら)
- \*状況次第、ケースバイケース

Q3 逆に、流動性の低い資産を投資対象として積極的に検討し難いとしたら、その難点は、どのような点に、見出されるのでしょうか。  
一番近いものを、一つだけ、お選びください。



	人数
①	2
②	4
③	0
④	1
⑤	3
⑥	3
⑦	2
合計	15

- ① 不測のキャッシュフローに備えた売却可能性は必要
- ② 資産全体のリスク管理上、売却によるリスク調整は必要
- ③ 時価評価がなされなければ、資産の適切な管理ができない
- ④ 運用者の技術に依存する度合いが大きすぎる
- ⑤ 成果が出るまでの時間が長すぎる
- ⑥ わかりにくい
- ⑦ その他

**【その他の回答】**

\*”非流動性”資産のポートフォリオ構築上のメリットが年金で理解されていないように感じる  
\*状況次第、ケースバイケース